

吹田市立博物館

博物館だより

NO. 2

SUITA CITY MUSEUM



国宝 銅造聖観音菩薩立像(薬師寺所蔵)レプリカ

「祈りの美—仏像—」

—博物館の新展示 観覧者参加の展示をめざして—

吹田市立博物館では、常設展示として、吹田の通史展示(第1展示室)と古代の窯業生産のテーマ展示(第2展示室)がありますが、さらに、新しい展示として、平成6年1月15日より、「祈りの美—仏像—」を始めました。今回展示しているのは、銅造聖観音菩薩立像(薬師寺所蔵)、銅造観音菩薩立像(鶴林寺所蔵)、木造阿弥陀如来坐像(四天王寺所蔵)、木造雲中供養菩薩像南21号(平等院所蔵)の計4軀のレプリカで、いずれも国宝、もしくは重要文化財に指定されている仏教美術史上の名品です。

この展示は、仏像を歴史的・造形的な観点からその美を観覧者の目と手で探究

してもらうことを目的としています。そのため、仏像レプリカは展示ケースに入れずに、観覧者がどの角度からも見れて、自由に手で触れたり、スケッチすることができるようにしています。

昨今では、考古資料や民具資料などを手にとって、身近に資料を観察できるようにしている博物館もあります。しかし、美術資料の場合、実物をこのような方法で展示することは、温湿度や安全性など資料保存の面から問題が生じてきます。また仏教美術作品の場合は、宗教的な配慮から、作品の尊厳を保つためにパーテーションで区切ったり、厚い



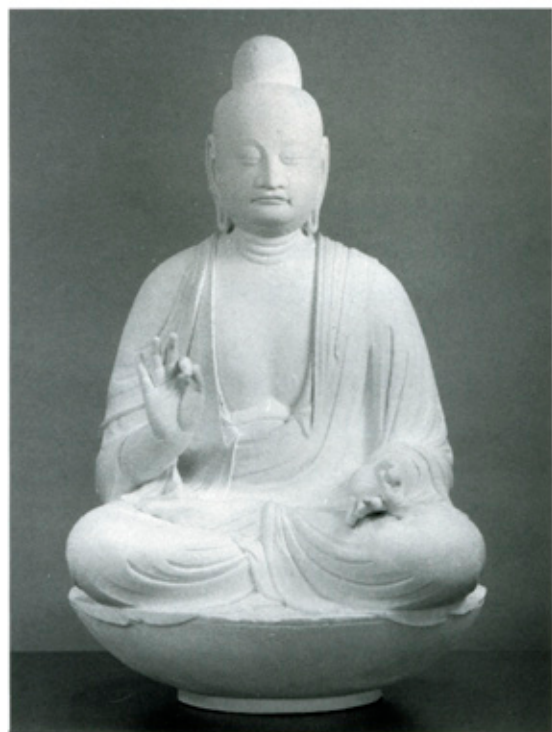
国宝 銅造聖観音菩薩立像(薬師寺所蔵)レプリカ

ガラス・ケースで遮断し、作品と観覧者の間に距離がつくられています。今回の展示は、こういった問題点をレプリカ資料を活用することによって解決し、観覧者が自由な感性と視点で仏教美術を鑑賞していただけるようにと考え、工夫したものです。

生涯学習が盛んに叫ばれている今日、当館では、一つの試みとしてこのような観覧者参加の展示を行いました。皆様のご意見、ご感想を頂戴できれば幸いです。なお、この展示は、特別展・企画展の会期及びその準備期間を除いて常に展示しています。



国宝 木造雲中供養菩薩像南21号(平等院所蔵)レプリカ



重要文化財 木造阿弥陀如来坐像(四天王寺所蔵)
レプリカ



重要文化財 銅造観音菩薩立像(鶴林寺所蔵)
レプリカ

伊勢参り絵馬

(吉志部神社寄託)



伊勢参り絵馬

伊勢参りという信仰の旅は、また庶民にとっての物見遊山^{ものみゆざん}の旅でもありました。江戸時代もなかばになると伊勢参りをはじめとする社寺参詣^{さんけい}の旅が、庶民のあいだで大流行していました。街道の整備や水上交通の発達とともに旅をする人々も飛躍的に増えて、全国津々浦々からやってくる旅人で伊勢路はにぎわっていたことでしょう。

村々では「伊勢講^{いせこう}」という組織をつくり、参詣費用を積み立て順番に代表の者たちが参詣するという代参^{しろ}の形式が一般的でした。村ごとに旅装束を揃えての伊勢参りは、庶民にとっての一大行事で日常から解放されるあこがれの旅でもありました。ほかに数か月で100万人を越える集団参詣が数十年周期で起こり、御蔭参り^{おかげさんけい}とよばれていました。御蔭参りには家族に内緒で通行手形ももたず旅に出る抜参り^{ぬけまい}の人々も多く含まれていました。

吉志部神社に伝わったこの「伊勢参り絵馬」(122.5×198.7cm)は、吉志部東村の伊勢講によって奉納されたもので、揃いの装束・揃いの手ぬぐいで伊勢参宮の旅をしている一行18名が描かれています。残念なことに剥離している部分も多く年号が消えていますが、使用された顔料^{がんりょう}から判断すると幕末から明治初年にかけて製作されたものと考えられます。また道中の名所として奈良の大仏殿や春日社、近江八景のうち瀬田や堅田などが描かれ、

当地からの伊勢参りのルートも知ることができます。

冒頭にも述べたように、伊勢参りには信仰という大義名分があるため、庶民が大手を振って出かけられる観光の旅でした。見るもの聞くものすべてが新鮮で魅力あふれる情報であり、風俗や文化の拡がりに少なからず影響を与えたといえるでしょう。

好評のビデオコーナー

当館3階のビデオコーナーは、おかげさまで、利用者の皆様から好評をいただいております。このコーナーには利用者の方が自分で好きな映像作品を選んで視聴できるブースが3つあります。ご覧いただける作品は吹田市域に関連する歴史や伝統的な生業、祭礼等で現在15作品ありますが、全て、企画、シナリオを博物館が行ったオリジナル作品です。

今後とも地域の歴史を発掘、記録する映像を親しみやすい作品に作り、内容を充実させていきたいと考えています。



ビデオコーナー

ビデオコーナー作品一覧表

弥生時代の吹田	—垂水遺跡—	5分10秒
須恵器を焼く	—千里丘陵の須恵器生産—	7分6秒
宮殿の瓦を焼く	—七尾瓦窯と吉志部瓦窯—	7分3秒
新芦屋古墳	—木室墳の謎—	6分12秒
神崎川の祭祀遺跡	—五反島遺跡—	7分29秒
文化財を守る		6分54秒
吹田の文化財散歩		7分53秒
大工と普請	—江戸末期の大工組—	6分6秒
稲作の1年	—田ごしらえ—	4分16秒
稲作の1年	—苗代づくり・田植え—	5分32秒
稲作の1年	—収穫—	5分54秒
どんじり 当事と吉志部神社		7分17秒
太鼓御輿	—山田伊射奈岐神社の秋祭り—	7分
泉殿宮の神楽獅子		6分
吹田の地蔵盆	—百万遍数珠くりと愛宕盆—	5分11秒

平成5年度特別展

『海を渡ってきた陶人たち』 の成果



特別展展示風景

平成5年10月17日から11月28日まで、平成5年度特別展『海を渡ってきた陶人たち』を開催しました。古典では陶器(須恵器)を焼く工人のことを「陶人」と記しています。この展示は朝鮮半島からわが国に製作技術が伝来した直

後に陶人によって製作された須恵器を取り上げ、5世紀のわが国と朝鮮半島の土器文化の流れを学習するものです。

朝鮮半島では、大陸からの高度な土器文化の影響を早く受けて、既に紀元前後から原始的な野焼きによる土器生産にいち早く別れを告げ、轆轤回転台と構造窯を使ったがしつどき瓦質土器が成立しました。また、遅くとも4世紀には、この技術をさらに発展させて高火度で焼かれた陶質土器が完成し、5世紀の前半にはわが国へ伝えられました。この外来の革新



小阪遺跡出土須恵器 方形容器(大阪文化財センター保管)



講演会風景

的な灰色の陶器を、わが国では「須恵器」といいます。

須恵器の生産が伝来した様子は、5世紀の前半に九州北部や瀬戸内海沿岸に点在した須恵器窯跡や、古墳・集落跡から出土する須恵器をみることによって分かります。渡来し

てきた工人は伝統的な彼地の手法を駆使して製作したため、朝鮮半島独特の器種や紋様をもったエキゾチックな土器を生産したのです。また、轆轤回転台のようなわが国では知られていなかった高度な製陶技術は、わが国の伝統的な土師器に大きな影響を与え、須恵器の手法を取り入れた土師器が、各地から出土しています。

展示では、大韓民国における陶質土器窯跡の発掘事例の紹介をはじめ、西日本各地の36遺跡から約400点を収集しました。なかでも、九州・瀬戸内海沿岸の各地の窯の出土資料を13箇所から181点を収集し、地方の小規模な窯の実態にもメスを入れました。吹田市朝日が丘町に所在する32号須恵器窯跡は、大阪平野にやって来た最初の陶人が構築した最古期の窯ですが、このような特色ある須恵器を他地方の窯跡の出土例と比較することによって、吹田にやってきた陶人の系譜を探ることができました。

特別展の期間中には、2回にわたる公開講演会が開催されました。10月24日には京都文化博物館学芸員の定森秀夫氏によって、「韓国の土器文化からみた日本」と題して講演がおこなわれ、わが国の須恵器のルーツを探ることができました。また、11月21日には大谷女子大学教授中村浩氏によって、「海を渡ってきた陶人たち」と題して講演があり、窯跡の豊富な調査実績を踏まえて須恵器生産の特性が語られました。なお、会期末の11月27・28日の2日間にわたって、特別展への出陳機関の関係者や須恵器・陶質土器の研究者によるシンポジウム「討論会—須恵器の始まりを考える」が、同実行委員会によって開催され、韓国での調査事例の検討や、わが国の須恵器生産の開始期、地方での生産の様相を巡って、多くの論議が交わされました。このように、広く西日本全域から一堂に資料を収集し展示された今回の特別展では、地方と畿内のはたした役割を逐一整理し、わが国の須恵器伝来の実態に大きく迫ることができました。

新収資料紹介

脇指 無銘 政光 一口

(村田稷氏寄贈)

南北朝時代後期～室町時代初期

刀長54.2cm 反り1.8cm

備前国長船派の刀工政光の作と伝える脇指。

政光は、備前長船派の正系である兼光の弟子で、南北朝後期から室町初期に活躍しました。

地肌はよくつんだ板目状の模様が表れ、淡く映りをみせています。刀文はやや開き気味の互の目で、地刀ともによく冴えています。茎は江戸時代の初め頃に磨上げられ、その際、元の茎が詰められて無銘の脇指となりましたが、本来は2尺6寸位(約79cm)の太刀であったと思われます。長船派の作風を伝える優れた作で、同派の研究資料として貴重といえます。



今後の博物館の行事予定

■展覧会

◇特別展 平安宮に葺かれた瓦の生産と流通に関するテーマで開催します。

開催予定 平成6年10月15日(土)～11月27日(日)

■講座

◇春期講座 ①5月14日(土) 「日本の妖怪の歴史―天狗―」

②5月21日(土) 「平安京の瓦」

③5月28日(土) 「江戸時代淀川の往来」

◇夏期講座 7月23日(土)・7月30日(土)・8月6日(土)の3日間開催予定

吹田市立博物館だより 第2号

平成6年3月31日発行

吹田市立博物館

〒564 吹田市岸部北4丁目10番1号

TEL. (06) 338-5500 FAX. (06) 338-9886

■交通案内

JR岸辺駅下車徒歩20分

阪急吹田駅から桃山台駅前ゆき、山田樫切山ゆきバス「五月が丘」下車徒歩8分

千里中央ゆき、阪急山田ゆき、摂津ふれあいの里ゆきバス「岸部」下車徒歩10分

阪急南千里駅からJR吹田ゆきバス②・③系統「五月が丘」下車徒歩8分